

---

# 道 徳 教 育

---

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

「SOSの出し方に関する教育」の推進

### (2) 研究のねらい

本研究は、特別活動のホームルーム活動において「SOSの出し方に関する」授業を実践し、今後の道徳教育の参考とすることを目的とする。

### (3) 背景

我が国の自殺者数は、近年全体としては減少傾向にあるものの、小中高生の自殺者数は増加傾向である。令和2年には小中高生の自殺者数が過去最多、令和3年には過去2番目の水準であった。

平成28年に、自殺対策基本法が改正され、学校における児童・生徒を対象とした教育の実施について示された。この改正の趣旨や我が国の自殺の実態を踏まえ、自殺総合対策大綱(厚生労働省 2022)では、「児童生徒の自殺対策に資する教育の実施」として、次の3点が示されている。

- ① 命の大切さ・尊さを実感できる教育
- ② 様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育(SOSの出し方に関する教育)
- ③ 心の健康の保持に係る教育

加えて、文部科学省では自殺予防教育について、「子供に伝えたい自殺予防(学校における自殺予防教育導入の手引)」(文部科学省 2014)で次の内容を示している。

- 学校における自殺予防教育の目標
  - 「早期の問題認識(心の健康)」「援助希求的態度の育成」
- 育成すべき資質・能力等
  - ・ 長い人生において問題を抱えたり危機に陥ったりしたとき、問題を一人で背負い込まずに乗り越える力を培うこと
  - ・ 自分自身や友達の危機に気づき、対処したり関わったりし、信頼できる大人につなぐこと
- 授業内容
  - ・ 自殺の深刻な実態を知る
  - ・ 心の危機のサインを理解する
  - ・ 心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学ぶ
  - ・ 地域の援助機関を知る

また、これらの教育は、学校全体でその必要性を共有し、一体となって取り組むことが重要であるとされている。

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』には、道徳教育の目標について「人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」(文部科学省 2018 p.29)と示されている。小・中学校における「特別の教科である道徳」の学習等を通じた道徳的諸価値の理解を基にしながら、自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成していくことが大切であるとされている。高等学校においては、小・中学校と異なり道徳科が設けられていないことから、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導のための配慮が必要とされており、公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動を中核的な指導場面とし、各教科・科目等の特質に応じ、適切な指導を行うこととしている。『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説特別活動編』には、ホームルーム活動の内容に「青年期の悩みや課題とその解決」、「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」等が示されている。

このことから、本研究では、自殺総合対策大綱の「児童生徒の自殺対策に資する教育の実施」より、「様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育(SOSの出し方に関する教育)」に着目し、特別活動のホームルーム活動において、自分の知らない自分自身について知ること(メタ認知)や、心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学び、主体的な判断の下に適切な行動を考えるための授業実践を行うこととした。

## 2 実践事例

(指導事例案1)

SOSの出し方に関する授業 ～アクティビティ(助け鬼)から援助希求行動について考える～

- (1) **ねらい** : ア 自分一人では解決することが困難な問題に直面した時、周囲にSOS(援助希求行動)を出すことの必要性について考えを深めることができる。  
 イ 他者とのつながりを持つことの重要性について考えることができる。
- (2) **評価規準** : アクティビティを通して、助けを求めることの必要性や他者とのつながりを持つことの重要性について理解し、援助希求行動について自らの言葉で表現している。
- (3) **対象・場所** : 2年1組40名・武道場
- (4) **使用教材** : フリースボール(6個)、バトン、ストップウォッチ、ワークシート
- (5) **本時の流れ** (50分)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法等
5分	○導入 ・「助け鬼」を行い、気付いたことを共有し、深めていく学習であることを理解する。 ・アイスブレイク	・4人一組の班に分ける。	
40分	○展開1(助け鬼) ・ルールの確認 ※クラスを半分(5班ずつ)に分ける。 半分は活動、半分は観察する。 ①仕切られた範囲内での鬼ごっこ ②鬼は複数いる(バトンを持つ) ③ボールを持っている人は捕まえられない ④ボールが欲しいときは「助けて」と言う ⑤鬼ごっこ中は走らない  ○展開2(振り返り) ①鬼ごっこ中に起きた事象を、ワークシートに書く ②現実と引き比べるとそれはどんな事象かを班で話し合う ③対策・対応について話し合う  ○展開3(発表) ・話し合った内容を各班1分で発表する。	・捕まったり捕まえられたりすることを楽しむことを伝える。 ・鬼ごっこの最中に起こった事象を観察し、発表することを伝える。 ・事象とは何かについて、ヒントを言っておく。(後ろを向いていたので渡せなかった等)  ・悩みを一人で抱え込む中高生が多い現状を伝え、相談の受け手はたくさんいることに気付かせる。	・アクティビティを通して助けを求めることの必要性や他者とのつながりを持つことの重要性について考え、話している。 【観察】
5分	○まとめ ・本時を振り返り、学習の感想をワークシートに書く。	・相談機関の連絡先が分かる資料を提示する。 ・養護教諭、担任より、苦しいときは相談に応じるので一人で悩まないでほしいというメッセージを伝える。	・援助希求行動について自らの言葉で表現している。【ワークシート】

研究実施校：神奈川県立市ケ尾高等学校(全日制)

実施日：令和4年11月21日(月)

授業担当者：岡 豊 教諭

(6) ワークシート

ワーク1. 起こった出来事を6つの書き出しに続けて書いてみよう。6つの書き出し以外の内容は、⑦に書いてみよう。

書き出し	出来事
①ボールを投げたら、	
②ボールを投げたのに、	
③ボールを投げた時、	
④ボールを投げたのに、	
⑤「助けて」と言ったら、	
⑥「助けて」と言ったのに、	
⑦	

ワーク2. 「ワーク1」で書いた出来事①～⑦を、普段の生活に置き換えるとどうなるだろう？

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

ワーク3. 「ワーク2」で置き換えた内容で、対策（対応）が必要なものについて、どうすればよいかを班で話し合おう。

--

今日の授業で感じたことを書きましょう。

--

※生徒が記入した内容

ワーク1. 起こった出来事を6つの書き出しに続けて書いてみよう。6つの書き出し以外の内容は、⑦に書いてみよう。

書き出し	出来事
①ボールを投げたら、	相手が助かった。 相手が受け取ってくれた。
②ボールを投げたのに、	だれもキャッチしてくれなかった。
③ボールを投げた時、	受け取った。 助かったと思った。
④ボールを投げたのに、	受け取らなかった。 背中を向けていた。
⑤「助けて」と言ったら、	ボールを投げた。 助けてくれた。
⑥「助けて」と言ったのに、	だれもボールを投げしてくれなかった。 助けてくれなかった。
⑦ボールを持っている人たちが	持っていない人を守っていた。

ワーク2. 「ワーク1」で書いた出来事①～⑦を、普段の生活に置き換えるとどうということだろう？

① 勉強を教えたら、相手のテストの点数が上がった。 話しかけたら会話が弾んだ。
② あいさつしたのに、だれも気付いてくれなかった。 話しかけたのに無視された。
③ 悩みを打ち明けてくれた時、相談に乗った。
④ 「相談に乗るよ」と声をかけてくれたのに、一人で抱え込んでいた。
⑤ つらいときに「助けて」と言ったら、話を聞いてくれた。
⑥ 勇気を出して「助けて」と言ったのに、だれも気付いてくれなかった。
⑦ いじめられている子をみんなで守った。

ワーク3. 「ワーク2」で置き換えた内容で、対策（対応）が必要なものについて、どうすればよいかを班で話し合おう。

④について、一人で抱え込まず、だれかに相談できるようにする。

#### (7) 授業実施後の振り返り

鬼ごっこの内容から普段の生活を振り返るといふ展開は、生徒の中でも気付きが生まれ、ねらいの達成のために非常に効果的であった。また、相談機関や保健室の紹介など、養護教諭との連携も、生徒たちに安心感を与え効果的であった。しかし、ワーク2については、事前に具体的な例を示しておく、発問を工夫するなど、生徒の気付きをより深めるための改善が必要である。また、アクティビティにおいて、助け合う場面をより多く作り出す設定の工夫により、より効果的な授業になると考える。

《指導事例案2》

SOSの出し方に関する授業 ～ワークを通して他者のSOSを受け止めることについて考える～

- (1) **ねらい**：他者の意見の受け止め方(傾聴力)について理解する。
- (2) **評価規準**：聴き方のポイントを自ら発見しながら理解することができる。
- (3) **対象・場所**：3年4組38名・ホームルーム教室
- (4) **使用教材**：スライド、タイマー、ワークシート
- (5) **本時の流れ**(45分)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法等
10分	<p>○導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れとねらいを確認する</li> <li>・アイスブレイク(お地藏さんワーク)</li> </ul> <p>★3人一組を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①話し手・聴き手・観察者を決める。</li> <li>②話し手は決められた題材に関して1分間話をする。</li> <li>③聞き手は無反応で腕組みをして話を聴く。</li> <li>④1分後、観察者は、二人の様子を話す。話し手・聴き手も会話をしているときの気持ち等を話す。</li> <li>⑤話し手・聴き手・観察者を交代して①～④を同様に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生の自殺者が多い現状について伝える。</li> <li>・援助希求行動とそれを受ける側の学習をすることを伝える。</li> <li>・話し手・聴き手ともに自分がどのような気持ちになるか観察しながらワークを進め、観察者は二人の様子をよく観察するよう指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手は、聴き手の聴き方に左右されるということについて考えたり、発表したりしている。</li> </ul> <p>【観察】</p>
30分	<p>○展開1(傾聴力ワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①3人一組でアイスブレイクの続きの順番で、話し手・聴き手・観察者を決める。</li> <li>②話し手は決められた悩みごとを聴き手に相談する。</li> <li>③聴き手は与えられた指示*に従い、受け答えをする。 (※批判・アドバイス・すり替え)</li> <li>④傾聴力診断テストを実施する</li> </ul> <p>○展開2(傾聴力ワーク)</p> <p>話し手・聴き手・観察者を交代して展開1の①～③を同様に行う。</p> <p>※診断テスト結果を基に、傾聴を意識した受け答えをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手・聴き手ともに自分がどのような気持ちになるか観察しながらワークを進め、観察者は二人の様子をよく観察するよう指示する。</li> <li>・ついつい質問したくなる自分や、自分のことを考えてしまう自分がいることに気付かせ、援助希求行動には相手(話し手)を主語にして話を聴くことが大切であることを説明する(気付かせる)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談する側の気持ちを考え、日頃の自分の話の聴き方について振り返っている。</li> </ul> <p>【観察】</p>
5分	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時を振り返り、学習の感想をワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生の自殺者が多い現状について伝え、自分はかけがえない存在であることを気付かせる。</li> <li>・相談機関についてスライドで紹介する。</li> <li>・苦しいときは、相談に応じるので一人で悩まないでほしいというメッセージを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助希求行動に対する受け手側の心得について考えている。</li> </ul> <p>【ループリック】</p>

研究実施校：神奈川県立横浜清陵高等学校(全日制)  
 実施日：令和4年12月1日(木)  
 授業担当者：平本 美咲 教諭

## (6) ワークシート

2022. 12. 01 SOSの出し方に関する授業～傾聴について～

4桁番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

### ◎今日の目標

1. 聴き方のポイントを自ら発見する
2. 話し手は聴き手の聴き方に左右されるということに気付く

### ◎ループリック（自己評価→ABCに○をつける）

1. A：積極的にワークに参加し、自分の聴き方について改めて気付いたことがあった  
B：積極的にワークに参加したが、自分の聴き方について改めて気付いたことは思い浮かばなかった  
C：積極的にワークに参加したり、自分の聴き方について考えることができなかった
2. A：人との会話における聴き方に関するヒントが得られ、今後にいかせそう  
B：人との会話における聴き方に関するヒントが得られたが、今後にどういさせるか分からない  
C：人との会話における聴き方に関するヒントが得られなかった

### ◎今日の授業で、最も印象に残ったこと、気付きなど

### (7) 生徒記入抜粋（◎今日の授業で、最も印象に残ったこと、気付きなど）

- ・仲の良い友達の相談にのるときには、否定してしまったり、自分の思うことをどんどん話してしまっていたから、その前にまず共感したりすることが大切だなと気付くことができた。
- ・観察者をやったときに、否定とかしているわけではなくても相槌がないと感じ悪いなと思った。
- ・今まで、このようにして自分の言動や振る舞いについて深く考えたことがなかったのですが、人の話を聞くのがとても好きなので、不快な思いをさせないように改めて気を付けようと思いました！
- ・会話の途中で口をはさむのはよくないなと改めて思った。自分が喋り過ぎているかもしれないと思った。共感したり、相槌を打ったり、聞くときの態度も話し手にとっては重要になってくると考えた。
- ・相手の反応が悪いと話したくないなって思う時があるから、周りの子にそういうふうに使われないようにしようと思った。
- ・意識なしに人を傷つけているかもしれないので気を付けようと思った。

### (8) 授業実施後の振り返り

ワークについて、生徒の演技力に委ねられる部分が多かったが今回に関しては、話が苦手な生徒もいたものの概ねよく取り組んでいた。生徒の実態に応じて、簡単な原稿を用意するなどの工夫が必要である。

また、ワークのテーマについてはどこまで配慮すべきか難しいところではあるが、実際にテーマと合致するような状況の生徒もいるということを想定してケアをする必要がある。

役割分担にあった観察者の視点を全体で共有することができると、生徒自身が客観的に物事を捉えてより多くの気付きを得ることができると思う。

## 引用文献・参考文献

神奈川県教育委員会 2022 「児童・生徒の自殺予防に向けたこころサポートハンドブック(改訂版)」

<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/25122/kokorosuporthandbook.pdf> (2023年2月3日取得)

厚生労働省 2022 「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」

<https://www.mhlw.go.jp/content/001000844.pdf> (2023年2月3日取得)

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』 東洋館出版社

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説特別活動編』 東京書籍

文部科学省 2014 「子供に伝えたい自殺予防(学校における自殺予防教育導入の手引)」

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2014/09/10/1351886\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/09/10/1351886_02.pdf) (2023年2月3日取得)